

# 日本ヘルスサポート学会

学会寄付趣意書

2015年11月

## 寄付金募集趣意書

日本ヘルスサポート学会

理事長 田中 滋

副理事長 松田晋哉

日本ヘルスサポート学会は、日本およびアジア太平洋地域における研究者および実践者の研究成果および実践成果を交換・共有する機会ならびにヘルスサポートに関係する研究および実践を志している者への教育の機会を提供し、内外の関係する学協会と連携することにより、日本およびアジア太平洋地域のヘルスサポートの研究および実践の発展に貢献することを目的として2006年に6月に設立されました。

本学会は、研究の進展とその成果の世の中への積極的発表を通じ、ヘルスサポート・サービスの発展に積極的に貢献するために、大学やシンクタンクに属する研究者はもちろん、医師・保健師・看護師・栄養士をはじめとする実際の担当者、検診を含むヘルスサポート事業を行う営利・非営利の事業者、それら事業を支援する先端技術の開発企業、保険者（社保・国保・介護保険）、生命保険会社と損害保険会社、そして政策関係者など産官学の幅広い分野からの参加者が集い、研究成果を発表する学際色豊かな学会であることが特徴であります。

これまで、学術集会・研究会の開催、学会誌の刊行および学会賞の実施等の活動を行ってきましたが、平成25年度からは2つの研究部会を設け、これまで以上に活発な研究及び発表を行ってまいりました。本年度も、引き続き研究部会の活動を促進し発展させることを計画しております。

つきましては、当学会の趣旨にご賛同いただける方からのご寄付をお願いしております。添付いたしました、学会活動計画に何卒ご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本学会は、日本製薬工業協会が定める「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」(2011年1月19日策定、2013年3月21日改定、2013年12月17日改定)に基づき、寄付をしていただいた企業が寄付先の名称および寄付金額をそのウェブサイト等を通じて公開することに異議なく同意することを表明しております。

現在の学会活動・状況についても下記のとおり資料を添付いたしました。

資料1 日本ヘルスサポート学会の概要

資料2 平成26年度 事業報告

資料3 平成27年度 事業計画

資料4 平成26年度 会計報告および会計監査報告

別添 寄付申込書

## 資料1 日本ヘルスサポート学会の概要

### 本会の事業概要

#### 1. 研究・実践成果発表集会、および研究会・研究部会の開催

学術集会を毎年開催し、不定期に部関係者を招いた研究会・講演会の実施を開催している。

2015年は、産業医科大学松田晋哉教授を大会長とする、第10回学術集会を慶応義塾大学三田キャンパスで開催した。

また、2013年度から研究部会を設置し、研究テーマを絞った部会での研究・発表活動を推進している。筋骨格系疾患が及ぼす社会的インパクトと就労復帰に関する、Fit for Work 研究部会および健康経営に関する研究部会を設置し、研究活動および広報活動を進めた。さらに、研究部会活動を一層発展させることを計画している。

#### 2. 学会誌および成果報告等の刊行

英文の学会誌を刊行している。また、2015年度からは日本語の年報を発行した。

#### 3. ヘルスサポートに係る研究業務の支援ならびにセミナー開催など研究者および実践者の育成支援

2008年度より毎年研究活動および実践活動で顕著な成果を上げた、研究者・実践者を顕彰する学会賞を実施している。

### 学会役員

#### < 理事 >

田中滋	慶応義塾大学 名誉教授
松田晋哉	産業医科大学 公衆衛生学教室 教授
平井愛山	千葉県病院局・循環器病センター元理事
保坂隆	聖路加国際病院 精神腫瘍科 医長
目黒昭一郎	麗澤大学大学院 経済社会総合研究センター 客員教授
森山美知子	広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 教授
Gregg L. Mayer	Gregg L. Mayer & Company, Inc., President
小林篤	損保ジャパン日本興亜総合研究所 ファカルティフェロー

#### < 監事 >

伊藤雅治	全国訪問看護事業協会 会長
橋本迪生	横浜市立大学 名誉教授

## 資料2 平成26年度 事業報告

### 学術集会 第9回学術集会(2014年8月)

2014年8月26日に、松田晋哉産業医大教授を大会長とする、第9回学術集会を慶応義塾大学三田キャンパスで開催した。

#### 1 開催趣旨

ビッグデータは新しい情報化ビジネスの一環として議論されているが、ビジネスだけでなくヘルスケア分野では従来の手法では実現出来なかった成果を得ることが出来る新しい手法が出現していることを意味し、ヘルスサポートに関わる関係者がその可能性を真剣に考える時代が到来している。医療介護分野では、レセプトデータ、特定健診・特定保健事業の大規模なデジタル情報の生成利用を実現するインフラストラクチャーの整備が進み、ビッグデータ利用を利用して従来にない事業・サービスを提供することが現実のものになっている。

今回の学術集会では、このような基盤の整備が進められた後に、職域・地域・健康保険関係の集団について健康リスクを改善するためにどのような手法が有効か、また先端的に取り組んでいる事例からどのような示唆を得ることが出来るかについて、率直な議論の場を提供し、関係者の今後の取り組みに参考となるようにする。

#### 2 総会・学術集会プログラム

メインテーマ 「ビッグデータとヘルスサポート」

日程 2014年8月26日(火) 10:00~18:00

会場 慶応義塾大学 三田キャンパス 北館ホール

大会長 松田晋哉(産業医科大学 公衆衛生学教室)

大会長講演「ビッグデータとヘルスサポート」 松田晋哉(産業医科大学 公衆衛生学教室)



ランチョンセミナー 共催：アッヴィ合同会社「ヘルスサポートのためのビッグデータ活用事例」 村松圭司(産業医科大学公衆衛生学)



教育講演「医療保健領域におけるデータ活用の現状と課題」 石川ベンジャミン光一（国立がんセンター研究所）



シンポジウム「わが国の保健領域におけるビッグデータ活用の現状と今後の動向」「データヘルスと産業保健」藤野 善久（産業医科大学公衆衛生学）



「National Database の分析事例」藤森 研司（東北大学大学院 医学系研究科医療管理学分野）



「わが国の保健領域における big data 活用に関する政策の動向」山崎 学（みずほ情報総研株式会社 医療政策チーム）



## 学会誌の発行

英文学会誌発行 第 6 巻第 1 号まで発行。

日本語年報発行準備 英文学会誌に加えて、日本語年報を刊行することとし、英文学会誌と同じく J-Stage に掲載する準備を進めた。

## 第 7 回学会賞表彰（実践活動部門）と報告会

第 9 回学術集会にて表彰と報告会を実施。7 月 22 日学会賞審査の選考委員会選考委員会を開催し、次の 3 件の受賞（実践活動部門）を決定した。ふらて会グループ（「生きがいきづくり」の観点からの地域健康づくり活動の実践業績の向上）を同時に達成することを目的とした取り組み）、ヤマトグループ健康保険組合（事業主と協同した、生活習慣病予防事業の実施：特定健診・特定保健指導事業、前期高齢者医療費適正化事業等）、三菱電機健康保険組合（事業主と協同した生活習慣病予防事業の長期実施）。

## 研究部会の活動と情報提供拡充

### Fit for Work 研究部会

本学会は、Fit for Work 研究部会を発足させ、筋骨格系疾患が社会に及ぼす影響と就労維持・復帰にむけた課題について、様々な分野の専門家の参加を得て研究結果をまとめ、具体的な改善策を提言していく計画に従い、産業医科大学公衆衛生学教室教授 松田晋哉氏（本会副理事長）を部会長とし、麗澤大学大学院経済研究科教授目黒昭一郎氏、東京都医師会副会長近藤太郎氏その他の有識者をメンバーとする研究部会を 2013 年から開始し、2014 年度も継続。

### 健康経済・経営・会計研究部会

健康経営に取り組む実務家と研究者が、成功事例の報告と討議により情報の共有と取り組みの高度化を図る部会として、2013 年度に発足。2014 年度も継続。

## 研究部会活動に関する情報発信拡充

学会 HP で従来学術集会の活動報告を行っていたが、研究部会等の活動報告まで拡大した。

## 資料3 平成27年度 事業計画

### 第10回日本ヘルスサポート学会学術集会の開催

#### 1 開催趣旨

データヘルスとは、医療保険者がレセプト・健診情報等のデータ分析を行った上で、PDCAサイクルで行う、加入者の健康状態に即したより効果的・効率的な保健事業である。現在医療保険者は、基盤整備が進んだ状況のなかで組合員・扶養者、住民等の対象者に関するデータ分析を行って、それぞれが抱える健康課題に取り組む保険事業を開始している。このデータヘルスが広く実施できるのは、情報基盤が全国ベースで確立したこと（レセプト・健診情報等のデータを分析しベストプラクティスと比較できる）および先駆的な保健事業・ヘルスサポート事業の積み重ねがあったことが背景にある。データヘルスを実施する医療保険者は健康保険組合、協会けんぽ、市町村国保等であるが、データヘルスは、これらの医療保険者が単独で取り組むだけでなく、雇用主・事業主との連携と外部専門業者の活用も重視されている。医療保険者以外にも関係者との協働が必要とされ、幅広い関係者の協働、対象者の動機付け・継続的健康行動など多くの課題が、データヘルスには山積している。今回の学術集会は、データヘルスの現状と課題について、事例報告を交えて、率直な議論の場を提供し、関係者の今後の取り組みに参考となることを目的としている。

#### 2 学術集会プログラム

- メインテーマ 「データヘルスの現状と課題」
- 日程 2015年9月4日（金）10:00～18:00
- 会場 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール
- 大会長 松田晋哉（産業医科大学 公衆衛生学教室）

#### 大会長講演

データヘルスの現状と課題」 松田晋哉氏（産業医科大学 公衆衛生学教室）



#### 教育講演 「地域・職域におけるデータヘルスの課題」

古井祐司氏（東京大学 政策ビジョン研究センター 健康経営研究ユニット）



ランチョンセミナー 共催：アッヴィ合同会社

「データヘルスにおける労働生産性評価の意義」 藤野善久氏（産業医科大学医学部公衆衛生学）



シンポジウム「先進事例に学ぶ、データヘルス計画を立案・実施するための方法

「産業保健活動とデータヘルス計画」 林 剛司氏（株式会社日立製作所日立健康管理センタ）



「糖尿病腎症重症化予防～行政と医療連携の枠組みとアウトカム」 梅津 順子氏（埼玉県皆野町役場 健康福祉課）



「小規模事業所の事業主、行政機関、関係団体等との協働」 六路 恵子氏（全国健康保険協会保健第2グループ）



## 学会誌の刊行

英文学会誌 Asian Pacific Journal of Disease Management 誌 第6巻を刊行した。更に第7巻、第8巻を発行予定。

日本語年報「日本ヘルスサポート学会年報」第1巻の刊行

## 第8回学会賞表彰（実践活動部門）および報告会

7月22日学会賞審査の選考委員会選考委員会を開催し、次の受賞（実践活動部門）を決定した。千葉県いすみ市（行政・保険者、医師会と病院および市民団体が連携した糖尿病性腎症の重症化予防による人工透析防止活動）。第10回学術集会にて表彰。

## 研究部会の活動

### 1 Fit for Work 研究部会

Fit for Work 研究部会は、主として筋骨格系疾患が社会に及ぼす影響と就労維持・復帰にむけた課題について、様々な分野の専門家の参加を得て研究結果をまとめ、具体的な改善策を提言することを目指す。

産業医科大学公衆衛生学教室教授 松田晋哉氏（本会副理事長）を部会長とし、麗漂大学大学院経済研究科教授 目黒昭一郎氏、東京都医師会副会長近藤太郎氏その他の有識者をメンバーとする研究部会を2013年から開始し、2015年度も継続。

### 2 健康経済・経営・会計研究部会

健康経営に取り組む実務家と研究者が、成功事例の報告と討議により情報の共有と取り組みの高度化を図る部会として、2013年度に発足し、2015年度も継続。

### 3 研究部会（PHM 研究部会）の新設

欧米における Population Health Management（PHM）メソッドの紹介、評価および日本における適用を検討する研究部会を新設する

資料4 平成26年度 会計報告および会計監査報告

科	目		予 算		決 算	
( 経常収支の部 )						
経常収入の部						
1	会費収入					
	個人会員会費収入	400,000			340,000	
	法人会員会費収入	2,800,000	3,200,000		2,300,000	2,640,000
2	事業収入					
	(1)総会・学術集会参加料収入	1,000,000			486,000	
	(2)研究会参加料収入	50,000			0	
	(3)その他事業収入		1,050,000		400,000	886,000
3	補助金等収入		0	0	0	0
4	寄付金収入		0	0	3,000,000	3,000,000
5	その他収入					
	利息収入	0			721	
	その他収入	0	0		0	721
	経常収入合計			4,250,000		6,526,721
経常支出の部						
1	事業費					
	(1)総会・学術集会運営費	1,200,000			1,815,933	
	(2)学会誌発行費	1,050,000			187,488	
	(3)研究会運営費	50,000			0	
	(4)顕彰制度運営費	300,000			172,630	
	(5)研究部会運営費	2,500,000			2,081,031	
	(6)その他事業支出(HP改修関係)	700,000			618,000	
			5,800,000			4,875,082
2	管理費					
	(1)理事会運営費	30,000			26,025	
	(2)事務局運営費	1,000,000			896,989	
	(3)HP管理費	100,000			10,800	
			1,130,000			933,814
3	予備費		100,000	100,000	0	0
	経常支出合計			7,030,000		5,808,896
	経常収支差額			-2,780,000		717,825
その他資金収入の部						
	その他の資金収入合計			0		0
その他資金支出の部						
	その他の資金支出合計			0		0
	当期収支差額			-2,780,000		717,825
	前期繰越収支差額			13,266,355		13,266,355
	次期繰越収支差額			10,486,355		13,984,180

日本ヘルスサポート学会 2014年度財産目録

2015年5月31日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
資産の部			
1	流動資産		
	現金預金		
	現金	2,000	
	普通預金 みずほ銀行新宿新都心支店	5,273,775	
	当座預金 ゆうちょ銀行019店	10,782,053	
	流動資産合計		16,057,828
2	固定資産		
	固定資産合計		0
	資産合計		16,057,828
負債の部			
1	流動負債		
	未払金	2,057,648	
	前受金	16,000	
	流動負債合計		2,073,648
2	固定負債		
	固定負債合計		0
	負債合計		2,073,648
	正味財産の部		13,984,180

## 監 査 報 告 書

私共、監事は、2014年6月1日から2015年5月31日までの第8期事業年度の当学会の会計および会務の遂行状況を監査いたしました。その結果につき下記のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法の概要

監事は、理事等から会務の遂行状況を聴取し、会計および財産の状況を調査し、収支決算および財産目録につき検討を加えました。

### 2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、収支計算書および財産目録の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 会務の遂行状況に関して会則に違反する重大な事実は認められません。

2015年 7月 22日

監事 伊藤 雅治 

監事 橋本 迪生 

別添 寄付申込書

## 寄 付 申 込 書

返信先：日本ヘルスサポート学会事務局

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1 - 1 - 1 パレスサイドビル 9F (株)毎日学  
術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 Fax: 03-6267-4555

E-mail: jshss@mynavi.jp

貴会の趣旨に賛同し、下記金額を寄付いたします。

寄付金額 ( )

振込予定日： 年 月 日 頃

貴社名 \_\_\_\_\_

部署名 \_\_\_\_\_

ご担当者名 \_\_\_\_\_

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_

FAX: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

平成 年 月 日

振込口座: 銀行 / 支店名 みずほ銀行 新宿新都心支店

口座種別: 普通預金

口座番号: 1 1 5 5 0 1 2

口座名義: 日本ヘルスサポート学会 (ニホンヘルスサポートガッカイ)